

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobitiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



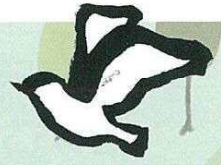
(撮影 肉山昌一氏)

複雑な関係

二〇二〇年の夏季五輪開催都市が東京に決定した。今日ではスポーツの祭典という一面と、五輪に派生して起る経済効果に関心を持つようになった。それだけ経済は私達と深い関わりを持っている。

こうした中で、東日本大震災から二年半が経つても仮設住宅に住む方は未だ九割だとされている。これには様々な理由が挙げられるが、復興が遅れていることは事実であり、東京五輪によって更に復興が遅れてしまうのではないかと不安の声も挙がっている。一つ一つの出来事には様々な背景が絡んでいるので、ただそれを取り上げて善し悪しを判断することは出来ない。しかし、その一つ一つが自分の生活に関わってくると、判断出来ないとなってしまう。いろいろな思い計らいが生まれてくる。

私達は震災や経済と関わりを持って生きているが、普段はあまり意識せずに過ごしている。意識させられるのは、震災や五輪などの出来事が私達の前に現れた時である。その時に、私達はたくさんの出来事と、それに関わる人々と共に生きている事に改めて気づかさず、その度に「共」に生きていることを教えられるのである。



みなさまのお声

「えこお」では聞法会や本誌に対して、皆さんのご意見・ご感想などを募集しています。申込みの際は、原稿用紙2枚(800字)までで住所・氏名をお書き添えのもと、

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
西徳寺「えこお」編集係

までお送りください。採用された方には「えこお」に掲載し、粗品を差し上げます。



厳めしい山門が
優しくなった

一般的に立派な門は、慣れていない人達には威圧と近寄りたがたい印象を与えます。

西徳寺の山門に、そのように感じていた門信徒の方々が多いのでは?と思っていました。私もその一人でしたから…。

私は久しぶりに西徳寺を訪れ、「あれ!」と意外な思いをいたしました。山門が花と緑に囲まれて、柔らかい雰囲気を出していたのです。以前ならば、やや緊張感を抱いて山門を潜つたものです。

それが、このたびはスーッと通過して本堂の前に来てしまいました。そして墓参を済ませ、いつものタメライは感じないで、寺務所を訪れていました。

後日あるとき、お寺に対する遠慮が薄れ、親しみさえ感じている自分に気づきました。

そして、あの厳めしい山門の印象が変わったように、西徳寺もこれからのように変化していくのかなあくと好奇心に駆られてしまいました。

(匿名希望)

思いつき

七月のお盆に西徳寺の境内で、役員皆さんが聞法会の活動に関して、墓参りの人にアンケートを取られていた。

その集計結果、それがどのように生かされていくのだろうか。

聞法会活性化のための企画委員会も開かれていると聞く。聞法会の活性化とは、どんな事を言うのだろうか。

聞法会の活性化というのは、参加人数が多ければ活性化なのか?西徳寺の事は、宗祖親鸞聖人の御教えを伝えていく事だから参加人数が多いに越したことはないが、人集めのために何でもやれば良いということではない。

三十年前に母が亡くなった時、現住職の岸本さんに読めと渡された本の内容が、私の聞法会参加のきっかけとなっている。

西徳寺の職員は、法事や葬儀に関わる時、悲しんだり、苦しんだり、悩んだりしている人に接する機会が多いのだから、その時に親鸞聖人の御教えを話し、聞法会という勉強会があると説明する地道な行動が活性につながるのではないだろうか。

(匿名希望)

なんで? 21 「聞法会」

よく「ぶんぼうかい」と言われる方がありますが、「もんぼうかい」と読みます。聞法会とは親鸞聖人が伝えて下さったお念仏の教えを通して、自分の普段の考えが問い返される場であります。私たちは普段、自分の知識や経験を振りかざして生きていますが、その自分自身が問われるという場はなかなかありません。

仏法は自分を写し出す鏡であると言われます。自分を写し出すものが仏法ですので、知識や経験を蓄えるためのものではありません。それなら何の役にも立たないじゃないか、と思う私の根性を照らし出す教えが仏法なのです。

その根性が照らし出され、自分勝手な私に仏の眼を賜り、現実生活を安心して生かさせて頂くのです。

西徳寺では、様々な聞法会を開いております。となたでもご参加いただけますので、是非お誘い合わせの上、お聞きにいらして下さい。

(仲井真裕記)

お念仏を伝承してくださった七人の高僧の最初は、印度の龍樹菩薩（一五〇〜二五〇頃南印度で活躍された方・現在の南印度にはナガールジュナ・コンダ「龍樹の丘」がある）です。三十五歳で真実に目覚められたお釈迦様は、八十歳までそのお覚りを多くの人々に伝え、導かれました。しかし、入滅されて百年ほどすると、お弟子たちのグループは、大きく二つに分かれ、さらにいくつかに分かれて、専門的になつて、やがて民衆の救いからはなれていきました。そのような時に、龍樹大士が出られて、お釈迦様の「縁起」の道理に立つて自分から発想する偏つた立場を否定し、すべての人が救われる大乘仏教の精神（中道実相）を明らかにされました。

ここに「いわれる」釈迦如来、楞伽山にして、衆の為に告命したまわく、南天竺に、龍樹大士世に出でて、悉く、能く有無の見を摧破せん。」は、『入楞伽経』にある、「南印度に大徳の比丘、龍樹菩薩が出られて、有無の見を破る」という、お釈迦様の予言通りに書かれたものです。親鸞聖人は、予言を信じられたのかといわれそうですが、ご和讃にも「南天竺に比丘あ

らん 龍樹菩薩となづくべし 有無の邪見を破すべしと 世尊はかねてときたまう」と、大事に讃えられます。それは、お釈迦様の覚りが真実であり真理であるかぎり、一時形式



(ナーガルジュナコンダ)

化されても、必ずよき理解者が現れ真意を間違ひなく引き継いで再興するとのお釈迦様の確信に、聖人が感動されたからでありましょう。このお釈迦様の願いに応じてくださ

たのが、龍樹菩薩であつたのです。人は、自分の意見や立場にこだわつて生活しています。この「有無の見」は、我や法が有ると執着し、また反対に我も法も無いと執着すること

正信偈の話 ②6 松井憲一

釈迦如来楞伽山 為衆告命南天竺 龍樹大士出於世 悉能摧破有無見

(釈迦如来、楞伽山にして、衆の為に告命したまわく、南天竺に、龍樹大士世に出でて、悉く、能く有無の見を摧破せん。)

でも「有無の邪見」ともいわれます。『大無量寿経』には、「田有れば田を憂え、宅有れば宅を憂え」「田無ければ亦憂えて田有らんと欲う。田有らんと欲う。宅無ければ亦憂えて宅有らんと欲う。」とあります。健康に執着すれば、病気であります。早く回復しようとして入院すれば、彼が見舞いに来ないといひ、見

舞いに来れば「やな予感彼がわざわざ来る見舞い」と思う。有無に執着すれば、有ることも無いことも自分を縛り、自分を疲れさせる原因となります。

仏教は、無我を教えますが、それはなにもないというのではありません。「わが」という邪見の「我」はないが、因縁として、縁起としての「我」はあるといひます。因縁としてあるのは、今ある自分があらゆる関係性においてある事実を、あるがままに頂くことです。あるがままに頂けば、「差別など誰にもしない大自然」といわれるように、比較ばかりして有無に執着する自分が教えられます。

「悉く、能く有無の見を摧破せん」とは、「有無同然なり（『大無量寿経』）」という道理に於いて、人間の執着心の深さを破つた龍樹菩薩への讃嘆です。われらは、素直に「有無同然なり」と領けませぬ。それで、親鸞聖人は、「解脱の光輪きわもなし 光触かふるものはみな 有無をはなるとのべたまう 平等覚に帰命せよ」と和讃されます。有無に執着する心は、なくなりませんが、有無に執着しな

めの自分であつたと、頭の下がることがあります。それは、阿弥陀仏の本願を聞いてお念仏する、その光に触れて「有無をはなす」恵みを頂くからだと讃えられます。

山門の言葉



人間の心って、決して病むということはないんですね。
病気になるのは、脳の働き方が病気になるのであって

上は、精神科医・大野裕氏がNHK教育テレビ「ころの時代」(23年11月13日)で語られた言葉です。以下に抜書きで紹介いたします。

・まったく不安を感じないでフラフラと歩いていると、なんか自動車にぶつかるかも知れない。やっぱり交通事故に遭うと心配だなあとか、そう考えるから自分を守ることができなくなるわけです。ですからそういった意味では、ストレスは自分の力の基になりますし、不安というのはある意味で心の警戒警報だと言われるんですね。ですからそれ自体は悪いことではないですし、むしろ必要なことなんです。

・何か問題がある時に、「これがあるからダメだ」というふうに退却する方向ではなく、「これがある。じゃ、それを解決するためには、どうすればいいか」。そしてその時に大事なものは、「今何ができるか」なんです。

・落ち込んでいらつしやる方というのは、どうしても過去に引つ張られているんです。「あんなことしてしまった」「あんなことしなければよかった」。過去は変えられないんですね。そしてもう一つは、将来を考えると不安になるんですね。何が起るかわからない。悪いことが起るんじゃないか。その時も将来はわからないんです。だけど今から準備をすることはできるんです。

すね。

・私は、「人に頼るのが上手い」って言われることがあるんですけども、それは自分にある意味自信がないからなんです。そして自分ができないと思ふことは、人に頼んで、できれば一緒にやってみよう。もつとよければ、相手の人が全部やって貰えるといいんですけども、そうもいかないのですね。

・私は、時々ちよつと思ふんですけども、よく「心が病む」というふうに言われますけど、人間の心って、決して病むということはないんですね。病気になるのは、脳の働き方が病気になるのであって、心自体はみなさん非常に綺麗なものをお持ちです。力を持っていらつしやるんです。ですからそれをどう生かすかが大事だと思うんですね。

・人間の持つている力、心の力というのは大きな、というふうに感じたことがあって、それもあって、精神科医としてこういうお手伝いができるのは凄く嬉しいな、というふうに思っています。

ききての山田誠浩氏が「大野さんのカウンセリングの特徴は患者の悩みが自分の思い込みに過ぎないことに気付くよう導いていきます」と指摘されています。

(岸本 秀一 記)

おつとめ

仏説阿弥陀經③

釈尊の仏弟子に周利槃陀伽という方がおられます。聡明な兄、摩訶槃陀伽に較べて非常に物覚えが悪く、自分の名前ですら忘れてしまうほどの人でした。わずかに四句ほどの短い偈文(釈尊の教え)ですら覚えられず、自分の愚かさを歎き、途方に暮れていた周利槃陀伽に對して、釈尊は一本の箒を渡し「塵を払え、垢を拭わん」と称えながら祇園精舎の掃除をするように命じられました。

来る日も来る日も精舎の掃除をするうちに、拭うべき垢とは我が心の愚かさであることに周利槃陀伽は気づかれます。それは自分の知識や能力を盾に、他人と争い傷つけ合うことに痛みを感じられない愚かさであります。後に周利槃陀伽は十大弟子の一人に数えられるまでになりました。

阿弥陀仏の教えとは、他人と比較する心から解放させ、我が身の尊さに目覚めさせるはたらきです。どのような現実であれ、誰とも較べる必要のないのが私のいのちなのです。

(木村 専正 記)

「報恩講ご案内」

今年も親鸞聖人のご命日をお迎えします。聖人は「愚禿」と名告られ、90年のご生涯を終えられました。しかし親鸞聖人が身をもってお示しくださった「南無阿弥陀仏」なるいのちの働きは、今日の私たちにも等流に働きかけています。「南無阿弥陀仏」なるいのちの働きは、人と人との出会いによって伝わり、自覚されるのです。聖人はその晩年に至っても、法然上人のお言葉「浄土宗の人は愚者になりて往生すとそうらいしことを、たしかにうけたまわりそうらいし」と門弟へのお手紙に記されています。そこには「愚の系譜」とでも言える、「人間存在の事実に出会った」人のつながりがあります。

「たとい一形悪を造るともただよく意を繫けて、専精に常に能く念仏すれば、一切の諸障、自然に消除して、定んで往生を得。何ぞ思量せずして、すべて去る心無きや。」(『選択集』)

「きのうの絶望は、きのうの絶望です。今日という、真っ白に真新しい日を、仏さまがあなたのために用意されています。それを感謝して生きていきなさい。それだけでいいのです」(意識 町田宗鳳師)と、法然上人は教えられます。その言葉の通りに生きられたのが、親鸞聖人のご生涯でした。

記

平成 25 年 11 月 2 日 (土)

午前 10 時 初日中法要「舌々正信偈・一首引」
法話
午前 11 時 30 分 混声合唱団「エコー」演奏会
正午 12 時 お斎
午後 1 時 30 分 大速夜法要「行譜正信偈・三首引」
法話

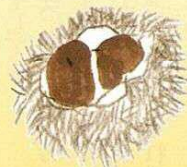
平成 25 年 11 月 3 日 (日)

午前 10 時 満日中法要「舌々正信偈・一首引」
法話
正午 12 時 お斎
午後 1 時 30 分 御満座法要「文類正信偈・七首引」
法話

布教使

新潟県三条市・徳誓寺住職
真宗仏光寺派 布教使

福井憲雄 師



※両日ともお斎をご用意します。

準備の都合上、10月25日(金)までに同封したハガキでお申し込みください。

日誌

- 8月25日 仏教青年会主催バーベキュー大会
(参加者 180名)
- 8月27日・28日 宗祖忌
- 8月28日 企画委員会
- 8月31日 混声合唱団「エコー」練習
- 9月7日・8日 中興忌
- 9月7日 評議員会定例役員会
混声合唱団「エコー」練習
- 9月11日 責任役員会・総代会
- 9月13日 教行信証「信巻」に聞く(第90回)
講師 宗正元師
- 9月14日 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 木村主任

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

北区 小山 幹夫 様
台東区 安井 房子 様
栃木県 齋藤 吉郎 様
大阪府 中井 賢隆 様



掲示板 平成25年10月

5日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
 12日(土) 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
 法話 大橋 伊知郎
 16日(水) 午後1時 婦人会間法会「釈尊伝」に聞く
 17日(木) 午後1時半 教行信証「信巻」に聞く(第91回)
 講師 宗 正元師

19日(土) 午後1時半 定例間法会
 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
 20日(日) 午後2時 城東ブロック会間法会(小岩区民館)
 22日(火) 午後7時 仏教青年会座談会
 26日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
 法話 高橋 淳
 27日(日) 午後2時 城南ブロック会間法会
 29日(火) 午前10時 仏具磨き(雨天順延)

仏教青年会主催バーベキュー大会

去る8月25日(日)に仏教青年会主催のバーベキュー大会がありました。今年は参加者180人という今までにないほど大勢の方々がお越し頂き、本堂で行われた開会勤行は椅子に座りきれないほどの人で溢れかえりました。



開会勤行の後、境内では寄付していただいた食材などを皆様に召し上がっていただきました。皆様からいただいた会費や寄付は合計で34万6千円になり、福島県自治体に義援金として送金いたしました。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。(高橋 淳 記)



仏具磨きのお誘い

11月2日・3日の両日、西徳寺の報恩講をお勤めいたします。今年も本堂内陣のお荘厳や会館の仏具磨き、合わせて境内の清掃をお願いしたいと思います。お忙しいとは存じますが、宜しく願い申し上げます。

法要当日は皆さんと協力して磨いた綺麗なお荘厳で、親鸞聖人のご恩を偲び一緒にお勤めをいたしましょう。

当日は昼食のご用意もいたします。ご都合の付く方は是非ともご参加ください。

●期日 平成25年10月29日(火)

午前10時から

(雨天の場合、翌30日(水)に変更いたします)

●場所 西徳寺境内

※参加いただける方は寺務所までご連絡ください。

(Tel 03-3875-3351) (主任 木村記)

混声合唱団「エコー」演奏プログラム

平成25年11月2日(土)

11時半～12時

指揮：横山慎吾

ピアノ：金澤麻里子

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 真宗宗歌
<small>しんしゅうしゅうか</small> | 5. 赤とんぼ |
| 2. 三帰依
<small>さんきえ</small> | 6. 里の秋 |
| 3. 念仏 | 7. 紅葉
<small>もみぢ</small> |
| 4. 村祭 | 8. 恩徳讃
<small>おんどくさん</small> |



「エコー」は門徒さんを中心に練習を重ねてまいりました。他の団員さんの声を聞き合いながら楽しく歌わせていただいております。当日はどなたでもお聞きになれますので、ぜひお越しください。(高橋 淳 記)

編集後記

2020年、ついに東京でのオリンピック開催が正式に決定しました。各方面から喜びのコメントが報告され、7年後に向けて様々な人から「夢と希望」が語られました。

反面、震災の影響で今もなお仮設住宅で暮らす被災者の方は、日本で開かれることに喜びを感じながらも、まだまだ先が見えない現実に不安を抱えておられます。オリンピック招致に湧く日本には、傷の癒えない人が大勢いらっしゃることにあらためて気づかされました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com